

土木産業遺産フットパス体験ツアー

フットパス体験ツアーの実施概要

■ 5月28日(土) 9:30～12:30

■ 参加者：18人

— 昨年の総選挙から流れ出した「コンクリートから人へ」このキャッチフレーズを聞く度に何か虚しさや憤りを感じて来ました。土木構造物が悪者・無駄の代名詞のように宣伝されて土木事業に携わって来た者にとっては肩身が狭い思いを感じてきました。

ネットで注文した本や食べ物が数日で自宅に届く。蛇口をひねれば水が出て、汚い水も流し去ってくれ衛生的で快適な環境で暮らせる。激しい雨が降っても安心して暮らして行ける。…当たり前前の便利で安心な生活は土木インフラが正常に機能して初めて可能なものであり、土木インフラの重要性を市民の方々にもっと知っていただきたいと常々考えて来ました。

そんな中、(独)寒地土木研究所から土木遺産を観光振興に活用するためのフットパスを共同で作ってみたいかと呼びかけられ、昨年資料を収集して「土木産業遺産フットパス」を編集しました。その過程で土木インフラが都市の発展や維持のために非常に重要で先人の技術者としての苦労や挑戦、プライドを感じる事が出来、調べ歩くのが楽しくなってきました。

そのフットパスの充実と改善を目標に道南技術士会として上記日程で体験ツアーを実施しましたので報告します。

函館の土木産業遺産の特徴

函館は幕末の開港都市として日本の近代化に果たした役割は非常に大きい。国際貿易港として人と物

が大量に流入し、それに伴い我が国の経済発展や最新工業技術の牽引役となった。特に明治初頭から人口が急増した事や貿易振興のために我が国の先頭を切って近代インフラ施設の整備がなされ、様々な新しい試みが成されている。

また近郊の上磯町に石灰石の良質な鉱山があったことからセメントの生産も早くから始まった事や海風による大火が多く、耐火構造物への要請が高かった事から当時の最新技術であるコンクリート構造物が多数建設された。また、近代港湾の父とも言われる廣井勇博士が日本で初めてコンクリートの品質管理手法を提案したのも函館漁港であり、それにより良質のコンクリートを作る事が出来、その手法が市内で伝搬したと考えられる。



それらの構造物は建設後100年程度経過しているにもかかわらず、多くは現役で活用されている。このように明治から昭和初期のコンクリート構造物が現役で活躍している都市は全国を見ても大変珍しく貴重だとも言える。「コンクリート品質管理技術発祥の地函館」があったからこそ我国は近代国家を建設でき世界第2位の経済大国にまで発展できたと言えるのではないかと勝手に地元の技術屋として

誇りに思っている。これらの貴重な近代土木遺産の歴史的な重要性、技術上の工夫、技術者の思いを一般の方に伝える事により、新たな観光資源に生まれ変わるのではないかと考えている。

土木遺産のフットパスへの融合

フットパスとは産業革命後の英国から始まった田舎の景色を眺めながら歩くルートを整備して行き、都市住民が都市生活のストレスを癒せるような小径を案内する手法である。本場英国では様々なテーマを持った多くのフットパスルートが存在している。我国でも健康志向と観光振興に活かされると普及し出している。

本来は自然の景色を見ながら歩くものであるが、歴史的建造物を訪ね歩くなどの都市型フットパスもあり、今回は函館ならでは土木・産業遺産に解説を加えたフットパス用の案内地図を作成した。



体験ツアーの状況

今回のツアーには、土木学会の土木遺産選定委員をされていた函館高専葦澤名誉教授も参加され解説に協力していただいた。

印刷物には表現しきれない解説や隠れたエピソードを古写真・古地図を見せながら解説したが、流石に技術に興味のある方々ばかりだった為色々な話に発展して行くため1カ所で立ち止まりなかなか先に進まないと言う現象に見舞われてしまった。結局3時間で2/3程度の工程しか進めず途中で今回の体験ツアーは終了せざるを得なかった。

普段は全く注目されない土木建造物が少し切り口を変えると観光資源に変身する様子を土木屋として

は本当に嬉しく感じている。目標としていた土木インフラの重要性を市民へ理解していただくきっかけに少しは役に立つのではないかと期待している。



今後の課題

今回の体験ツアーの結果から、体力や時間に合わせた多様なコース設定を行う必要があると考えている。函館は坂道が多く、結構足腰に負担が掛かるのを実感した。もう少し短いコースに分けて解説する建造物を増やし、更に技術上の特徴や工夫など一般の方々が気付かない部分を技術屋の目で解説するための技術の掘り下げも必要と考えている。

これから時間とお金に余裕のある団塊の世代が大量に定年を迎えつつあり長期滞在型旅行が増化すると言われている。これからの人口減少社会において観光業界としてもそれらへの対応が求められている。歴史が好きで知識欲が旺盛な方が多く、それらの方々が喜んでいただけるコンテンツにできる可能性は高いと考えている。魅力を更に高めるためには歴史的な背景や繋がり・必然性を分かり易く伝える手法の構築と個人の自由な旅行スタイルに対応するためにガイドがいなくても楽しめるスマートフォンなどの情報機器の活用ができないかとも考え、はこだて未来大学の鈴木先生と開発中である。

更に新たな土木遺産の発見や技術上の珍しい特徴を発見した場合に情報を寄せ合い、ユーザー自身がフットパスの充実に貢献できるようなシステムの構築も必要と考えている。

是非、全道の皆さんに函館で土木・産業遺産フットパスを楽しんでいただきたいと思います。このフットパス案内地図は、寒地土木研究所の地域景観ユニットのHPからダウンロードできるようになっています。是非アクセスしてみてください。